

学校図書館活用促進事業 事例集



平成31年3月

北海道教育委員会

目次

「学校図書館活用促進事業」について	1
学校図書館の目的・機能	2
学校図書館の計画的な活用	
学校図書館全体計画例	3
学校図書館年間活用計画例	4
学校図書館を活用した授業実践例	
共和町立西陵小学校	5
厚真町立厚南中学校	7
今金町立今金小学校	9
東神楽町立東神楽中学校	11
別海町立中西別小学校	13

「学校図書館活用促進事業」について

学校図書館は、読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されています。

しかしながら、本道においては、学校図書館を利用する児童生徒や、授業において計画的に学校図書館を活用している学校の割合が全国と比べて低い傾向にあることから、学校図書館について、全ての教職員が理解し、学校全体で計画的に学校図書館が活用されるよう、昨年度から3年間にわたり実施している事業です。

北海道学力・体力向上総合推進事業「学校図書館活用促進事業」

課題

- 学校司書の資質・能力の向上を図るとともに、学校図書館の効果的な活用について管理職をはじめ全ての教員の理解を促す必要がある。
- 年間を通して計画的に学校図書館が活用されるよう、学校全体での取組を位置付ける必要がある。

事業概要

- 3か年にわたり全道14管内で、学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業づくりについての研修会を実施

指定校の選定
(教育局が選定※校種は生涯学習課が指定)

「学校図書館活用促進研修会」の実施
(教育局による運営)

平成31年度までの3か年で14管内実施
 ・H29→(小学校)留萌、オホーツク、釧路 (中学校)石狩、渡島
 ・H30→(小学校)後志、檜山、根室 (中学校)胆振、上川
 ・H31→(小学校)空知、日高、宗谷 (中学校)十勝

- 参加対象 各管内の学校図書館担当教員等
※各市町村、小学校1名・中学校1名の参加期待数
- 実施時期 9月～12月の1日間
- 研修会の主な内容(案)

指定校は、生涯学習課及び教育局の指導助言のもとで、次の事項に取り組む。

- 学校図書館全体計画等各種計画の整備
- 学校図書館を活用した授業実践
- 市町村立図書館と連携した読書活動
- 学校図書館の環境整備

講座名	内容
学校図書館の在り方	基本的事項(学校図書館ガイドライン等)、教育課程との関連等についての講話
授業公開・研究協議	学校図書館を活用した授業公開
事例発表	学校図書館の環境整備、全体計画・指導計画、授業づくりについての発表
全体計画・指導計画作成	自校の資料等を持ち寄り、演習・協議

研修の成果をまとめた事例集の発行
(生涯学習課が作成)

この「学校図書館活用促進事業」では、全道14管内で、小学校または中学校1校を指定校としています。指定校においては、平成31年度までの3か年のうち1回、学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業づくりについての研修会(学校図書館活用促進研修会)を開催するとともに、学校図書館全体計画等各種計画の整備や学校図書館を活用した授業実践等に取り組みます。

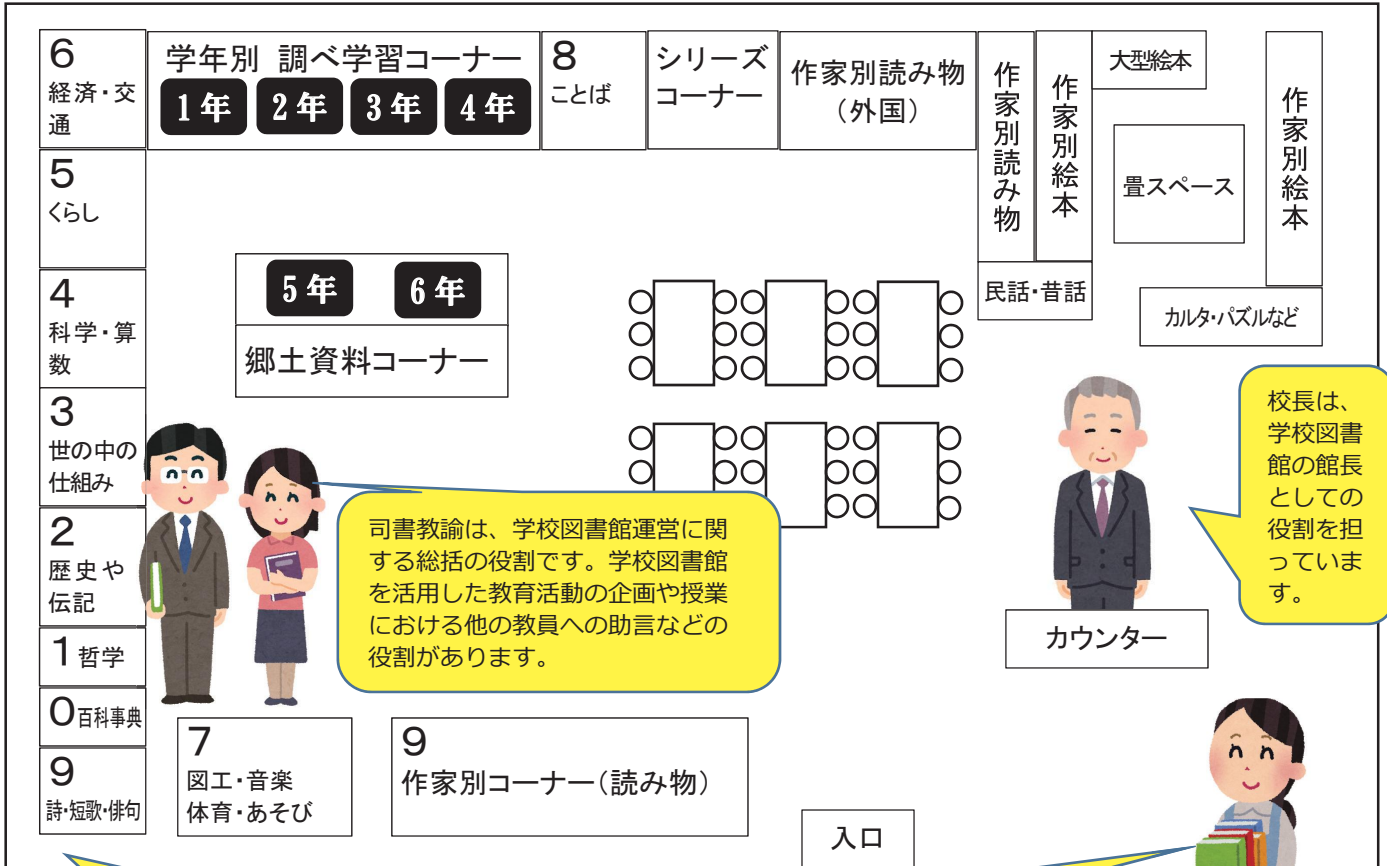
本事例集は、今年度「学校図書館活用促進研修会」を開催した5校の指定校による授業実践を中心に、指定校の取組の一部をまとめたものです。各学校における学校図書館活用の促進にお役立ていただければと思います。

学校図書館の目的・機能

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有しており、これらのことによって、学校の教育課程の展開に寄与し、児童生徒の健全な教養を育成する施設です。

「学校図書館全体計画」に基づき、教職員の連携の下、計画的・組織的に運営されます。

A小学校の学校図書館の例



図書館資料は、市町村立図書館と同様に、日本十進分類法（NDC）で分類され、児童生徒及び教職員が利活用しやすいようにしています。

学校司書は、学校図書館を運営に関わる専門的・技術的職務に従事します。例えば、図書の整理や貸出業務などのほか、教科等で使用する資料づくりの支援などの役割があります。

「読書センター」として

児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的に、落ち着いた読書できる環境です。

「学習センター」として

各種指導計画等に基づき、各教科等の授業で、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動を展開します。

「情報センター」として

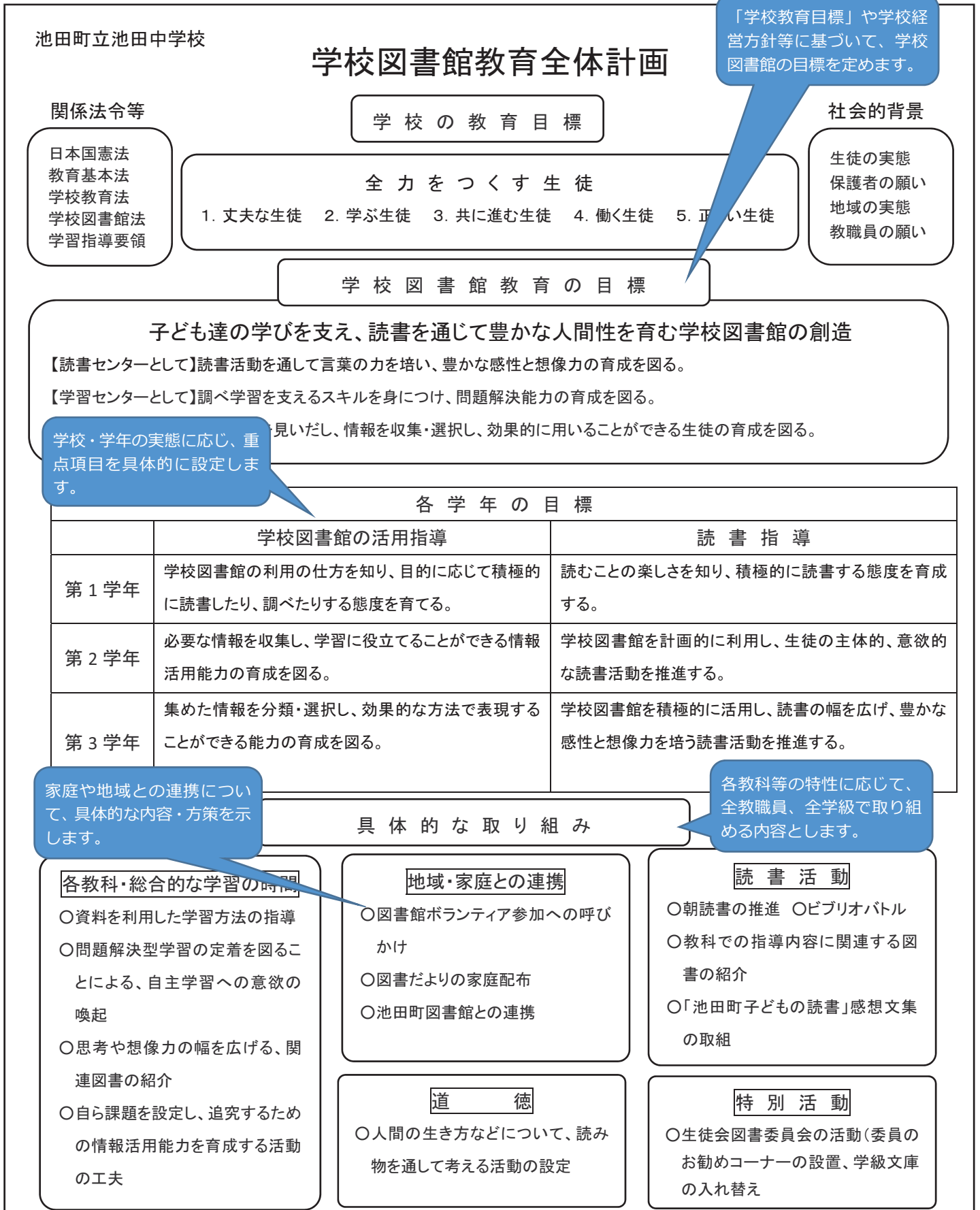
教員の授業づくりや教材準備に利用される場です。

これからの学校図書館は、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての役割が期待されています。例えば、児童生徒がグループ別の調べ学習等において、課題の発見・解決に向けて必要な資料・情報の活用を通じた学習活動を行うことができるよう、図書資料等の充実や学習しやすい機の配置などが求められています。

学校図書館の計画的な活用

学校図書館が期待されている役割を最大限に発揮することができるよう、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する各種指導計画等に基づき、計画的・継続的に学校図書館の利活用が図られるよう努めることが大切です。

学校図書館全体計画例(池田町立池田中学校・抜粋)



学校図書館年間活用計画例(栗山町立栗山小学校・抜粋)

各学年・各教科等で学校図書館を活用する学習単元等を示します。

目標		本の世界を深める(6年)				
月		4月	5月	6月	7月	8月
図書館の利用方法		学校図書館の利用の仕方	事典・年鑑・伝記・歴史の利用	教科学習と図書の活用	本の紹介	図書の活用
教科・領域等	国語科	考えや意見をノートにまとめよう		春はあけぼの	川とノリオ	
	他教科	社)大陸に学んだ国づくり 理)人や他の動物の体	社)大陸に学んだ国づくり 理)人や他の動物の体			社)新しい文化と学問
	道徳	自分がめざすところまで	地球を救う	権利と義務		
	特別活動		避難訓練について	交通安全について	夏休みの計画	
	総合的な学習の時間	栗山町や他市町の歴史と伝統	栗山町や他市町の歴史と伝統	栗山町や他市町の歴史と伝統	栗山町や他市町の歴史と伝統	栗山町や他市町の歴史と伝統

学校図書館年間活用計画例(東神楽町立東神楽中学校・抜粋)

各教科での活用のほか、朝読書の時間など、教育課程外の時間の活動を含めることも考えられます。

学年	国語	社会	理科
1学年	各時期 各単元での語句調べ 4月 身近なテーマについて調べる 5月 漢字の組み立てを調べる 8月 読書案内→ポップ作成 11月 故事成語を調べる 12月 読書案内 1月 漢字のなりたちを調べる	5月 人物カードの作成 8～1月 世界の諸地域(各州の文学作品) 2月 世界のさまざまな地域の調査	6～10月 植物の世界(植物図鑑)
2学年	各時期 各単元での語句調べ 5月 職業ガイドを作る 6月 新聞活用 7月 言葉の比較→類語辞典活用 読書案内 10月 同音異義語を調べる 12月 読書案内	8月～1月 日本の諸地域(各地域ガイドマップ) 2月 身近な地域の調査(地形図、景観写真)	4～6月 動物の世界(動物図鑑) 7～10月 原子・分子(元素図鑑) 10～12月 天気図(新聞)

共和町立西陵小学校

学校図書館活用のポイント

- ① 学校図書館年間活用計画に、学校図書館を活用する単元や児童に身に付けさせたい力及び関連資料について明記し、年間を通して計画的に活動を行っています。
- ② 公立図書館と学校図書館活用年間計画を共有しているため、公立図書館としても計画的に図書資料を準備し学校に貸し出すことができます。
- ③ 「情報カード」は、調べた内容を分類、整理するために活用するとともに、必要な本を再度、調べることができるよう、書名、著者、出版社、発行年、ページを記録します。

1 単元名

ことわざについて調べよう（小学校第3学年 国語科）

2 単元の目標と評価規準

【単元の目標】 ・ことわざや故事成語の中から調べたいことを決め、必要な事柄について本や辞典を活用して、調べることができる。
 ・書いた文章を見直し、より分かりやすく正確な言葉や表現にすることができる。

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざに関心を持ち、本や辞典を活用して調べようとしている。 ・書いた文章を交流し、分かりやすい表現について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本や辞典を活用して、ことわざについて調べて分かったことをカードに記録している。 ・書いた文章について内容を確認めたり、より分かりやすい表現に改めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざについて本や辞典を活用して調べる方法を理解している。

3 単元の指導計画

時	単位時間の目標	主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っていることわざを発表し合う。 ・学習課題を設定し、単元の見直しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ことわざに関心を持ち、本や辞典を活用して調べようとしている。【関・意・態】 □発言・観察
2 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざは、特徴に着目して調べられることを理解することができる。 ・特徴に基づき集めたことわざなどを調べる方法について理解できる。 ・同じ特徴をもつことわざの意味を調べ、カードに書き出すことができる。 ・報告する文の組み立てを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のことわざを特徴ごとに分けてノートに整理する。 ・どんな特徴をもつことわざを集めるのかを決定する。 ・辞典などを活用して調べる方法を理解する。 ・報告書の組み立てについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ことわざについて本や辞典を活用して調べる方法を理解している。【言語】 □ノート・発言
8 本 時 9	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理しながら、自分の文章の組み立てを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書に書く内容について、情報カードを活用しながら整理する。 ・整理した内容をもとに、報告書の組み立てを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■本や辞典を活用して、ことわざについて調べて分かったことをカードに記録している。【書く】 □組み立て表
10 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立てに沿って適切に事例を示しながら文末を統一して書くことができる。 ・書いた文章を読み返して適切な表現になるように見直すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを報告書にまとめる。 ・書いたものを読み返し、内容が適切であり、分かりやすい表現になっているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■書いた文章について内容を確認めたり、より分かりやすい表現に改めたりしている。【書く】 □組み立て表
13 ～ 14	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した報告書を読み合い、内容や書き方の工夫について交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した報告書を読み合い、感想カードを交換し、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■書いた文章を交流し、分かりやすい表現について考えようとしている。【関・意・態】 □観察・組み立て表

【ポイント①】


学校図書館年間活用計画に、学校図書館を活用する単元や児童に身に付けさせたい力及び関連資料について明記し、年間を通して計画的に活動を行っています。本単元では、必要な図書資料として、「ことわざ・故事成語辞典等」と記載しています。

4 本時の学習

□本時の目標

集めた情報を整理しながら、自分の文章の組み立てを考えることができる。(書くこと)

□本時の展開

過程	○主な学習活動	◇教師の関わり	■評価規準 □評価方法
導入	○本時の学習課題を確認する。 課題：報告書に書きたいことわざを選び、組み立ててメモに書こう。	◇情報カードを使って交流することを確認する。	【ポイント②】 公立図書館と学校図書館活用年間計画を共有しているため、公立図書館としても計画的に図書資料を準備し学校に貸し出しすることができます。
展開	○ことわざを選ぶときの進め方を理解する。 ■選ぶことわざについて ・知らなそうなもの ・おもしろそうなもの ・めずらしいもの ・わかりやすいもの ○紹介したいことわざを選ぶ。 【進め方】 ・どのようなことわざを紹介したいかを決める。 ・ことわざを3つ選ぶ。 ・読み手にことわざの意味が分かりやすく伝わるように書かれているか確認する。 ○グループでの進め方を確認する。 ○グループで交流する。 ～Aグループの交流～ ・ことわざの意味が、分かりやすく書かれているね！ ・このことわざは、こんなおもしろい意味だったんだね！	◇テーマを例示する。 ◇例示した以外でもよいことを確認する。 ◇選ぶときに悩んでいる児童がいたら、テーマを例示するなどのアドバイスを行う。  【グループ学習の様子】 ◇友だちの助言を聞いて、選んだことわざを変更してもよいことを確認する。	■本や辞典を活用して、ことわざについて調べて分かったことをカードに記録している。 【書く】 □組み立て表 【ポイント③】 「情報カード」は、調べた内容を分類、整理するために活用するとともに、必要な本を再度、調べることができるよう、書名、著者、出版社、発行年、ページを記録します。
終末	○選んだことわざを発表する。 あまり聞かない、「鳴くネコはネズミとらず」と「ねこを追うより魚をのけよ」を選びました。 ○本時の振り返りをする。 ～児童Bのノートより～ まとめ：紹介したいことわざを選んで組み立ててメモに書くことができました。 ○次時には、組み立てメモを完成させることを確認する。	◇おもしろい組み合わせのことわざ 3年〇組 ○〇 ○〇 ことわざには、どんな組み合わせのものがあるのかが気になったので、調べることにしました。 調べるときは、「ことわざ辞典」を使いました。さくいんから組み合わせのあるものを探して、ことわざとその意味を十枚の情報カードに書きました。 私が見つけた、組み合わせのあることわざは、 ・月にむら雲、花に風～よいことにはじゃまが入りやすく長続きがしないこと <中略> 【調べた本】 ・岡部 学 「写真でわかることわざ辞典」学研教育2010 <後略>	【児童Aの報告書】

「チーム読書」西陵小学校の取組

取組1 校内研究としての読書活動

研究主題(副題)を、「学校図書館を活用した授業を通して」とし、全教職員が共通理解を図った上で学校図書館を計画的に活用した授業実践を行い、主体的に学ぶ児童を育成している。

取組2 学校図書館の環境整備

司書教諭をはじめ、全教職員が連携を図り学校図書館の壁面装飾、新聞コーナー及び参考図書コーナーなど、児童の読書活動の活性化を図るための環境整備を行っている。



【学校図書館壁面装飾】



【新聞コーナー】



【参考図書コーナー】

厚真町立厚南中学校

学校図書館活用のポイント

- ① 「学校図書館年間活動計画」に学校図書館を活用する単元名などを明記することで、使用する図書を事前に余裕をもって準備することができるとともに、必要な図書が不足する場合には、町図書室からの貸出を受けることができます。
- ② いつでも必要な資料を探ることができるよう、図書資料にすぐ手の届く学校図書館で学習することがより効果を発揮します。

1 単元名



近代の世界と日本（中学校第2学年 社会科）

2 単元の目標と評価規準

【単元の目標】 近代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色を捉えることができる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
・近代の時代のつながりや関連を意欲的に追究しようとし、その時代の特色を考えようとしている。	・近代のできごとや動き、時代の特色について考察し、適切に表現している。	・近代の舞台となった場所や、日本の領土拡大の歩みを、地図や年表にまとめている。	・近代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

3 単元の指導計画

時	単位時間の目標	主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から、自分の必要とする情報を適切に探することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の資料から、自分が選んだ1890～1900年代のできごとに関わる記述を複数探し出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■近代の舞台となった場所や、日本の領土拡大の歩みを、地図や年表にまとめている。【技能】 □補助用紙・観察
	<p>【ポイント①】 「学校図書館年間活動計画」に学校図書館を活用する単元名などを明記することで、使用する図書を事前に余裕をもって準備することができるとともに、必要な図書が不足する場合には、町図書室からの貸出を受けることができます。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前後のできごとや影響をふまえ、自分の言葉で説明できるようにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数見つけた情報から、自分が必要としている部分を抜き出し、ベースとなる情報（文章）を作成する。 ・発表のための補助用紙を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■近代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。【知・理】 □調査用紙（ワークシート）・ノート
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・近代のできごとや動き、時代の特色について調べたことを、自分なりの言葉で説明できる。  <p>【生徒の作成物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 <p>【ポイント②】 いつでも必要な資料を探ることができるよう、図書資料にすぐ手の届く学校図書館で学習することがより効果を発揮します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■近代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。【思・判・表】 □発表・交流の様子  <p>【板書の様子】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報と発表をもとに、明治中期の時代の変化やできごとのつながりを考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表全体を通して、1890～1900年代の各できごとが、どのようにつながっているのか、また、どう時代が変化していったのかを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■近代の時代のつながりや関連を意欲的に追究しようとし、その時代の特色を考えようとしている。【関・意・態】 □調査用紙（ワークシート）・ノート

4 本時の学習

□本時の目標


調べた情報と発表をもとに、明治中期の時代の変化やできごとのつながりを考えようとしている。

(関心・意欲・態度)

近代のできごとや動き、時代の特色について調べたことを、自分なりの言葉で説明できる。

(社会的な思考・判断・表現)

□本時の展開

過程	○主な学習活動	◇教師の関わり	■評価規準 □評価方法
導入	○前回の活動を確認する。 ○本時の目標を確認する。	◇本時の見通しをもたせる。 ◇教師が作成した「新聞スクラップ」がどのような点に注目してまとめられているか確かめさせる。	【授業の工夫】 生徒が学習のゴールをイメージできるよう、教師がモデルとなる「新聞スクラップ」を作成し、提示しています。 ■近代のできごとや動き、時代の特色について考察し、適切に表現している。 【思・判・表】 □調査用紙(ワークシート)・ノート・発表・交流 ■近代の時代のつながりや関連を意欲的に追究しようとし、その時代の特色を考えようとしている。 【関・意・態】 □調査用紙(ワークシート)・ノート・発表・交流
展開	○発表を行う。 ・「帝国主義」からスタートし、時代順を追いながら、関連する事項については、矢印などで結んでいく。 ・できごとと補助用紙は自分の発表の際に、黒板に貼り付けてから発表する。 (発表者からクイズや問いかけ、聞く側からの質問も可能とする。) ○黒板に貼られた用紙や発表から、この時代の「特色」をまとめ、発表・交流する。	・関連項目によっては、必ずしも時代順で発表を行うわけではないことを、事前に生徒に伝える。 ・キーワードだけでもよいことを伝える。  【授業の様子】	
終末	○本時のまとめと自己評価を行う。	・自らの発表で初めて分かったことを中心に考えさせる。	

課題：「近代(前半)の特色とは何か？」を考える。

まとめ：1890～1900年代は、日本は近代化と帝国主義の広がりに関わるようになる時代である。
～生徒Aのノート～

「チーム読書」厚南中学校の取組

取組1 公民館図書室との連携①

平成26年度から学校の要望により学校図書館の環境整備について連携を図った取組を行っている。

図書室司書と学校図書整備ボランティアが学校の希望日に訪問し、新刊本や寄贈本の受入登録や室内装飾、その他、学校図書館に関する各種業務の補助を行っている。



【室内装飾】



【整備された書架】

取組2 公民館図書室との連携②

公民館図書室の450冊の図書を季節ごとに入れ替えながら移動図書館を運用している。厚南中学校の利用はないが、厚真小学校、認定子ども園、高齢者施設などを訪問し、町内の読書活動の活性化を図っている。



【移動図書館】

取組3 学校図書館の計画的な活用

学校図書館に期待されている役割を最大限に発揮することができるよう、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の活用に関する計画を年度初めに作成することで計画的な活用が図られている。

	国語	社会
1学年	11月～12月 「今に生きる言葉(故事成語)」	7月 「原始・古代の歴史事項比較調査」(調べ学習基礎)
	3月 「鑑賞文を書く」	

【年間活動計画(一部抜粋)】

学校図書館活用のポイント

- ① 公立図書館の司書が、授業で紹介する「おすすめの本」について、児童に対してレファレンスサービスを行っています。
- ② 公立図書館との連携を図り、単元の学習に関連した図書を「まなBOOK」コーナーとして設置し、児童が本を手に取りやすいよう工夫しています。
- ③ おすすめ図書カードに記入する時間や読み聞かせの場面では、公立図書館の司書が来校し、児童に対して記入内容の支援や読み聞かせを行っています。

1 単元名

物語のおもしろいところをしょうかいしよう『おすすめ図書カード』を活用しよう（小学校第3学年 国語科）

2 単元の目標と評価規準

【単元の目標】 人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにすることができる。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・豆太やじさまの様子や気持ちの変化を想像しながら、物語のおもしろいところを紹介しようとしている。 ・「おすすめ図書カード」をもとに、興味をもった本をすすんで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豆太やじさまの様子や気持ちが表れている言葉に着目し、場面と場面とを関連させながら気持ちを想像している。 ・登場人物の気持ちの変化や、場面のおもしろさに触れながら、「おすすめ図書カード」を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人柄や人物を表す言葉が、文中で使われていることに気付いている。 ・本の紹介を「あらすじ」、「構成」の内容や、「自分の感想」などから表現している。

3 単元の指導計画

時	単位時間の目標	主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書カード」を作成し、興味をもった本を紹介するという学習の見通しをもつことができる。 ・会話や行動をとおして、豆太の気持ちの移り変わりを捉えることができる。 ・豆太の会話や行動から豆太について思ったことをまとめ発表し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のとびらを読んで、学習の見通しをもつ。 ・会話や行動から、豆太の気持ちの移り変わりを考える。 ・場面ごとに豆太の会話や行動を書き抜き、その時の豆太について思ったことをまとめ発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■豆太やじさまの様子や気持ちの変化を想像しながら、物語のおもしろいところを紹介しようとしている。 【関・意・態】 ■豆太やじさまの様子や気持ちが表れている言葉に着目し、場面と場面とを関連させながら気持ちを想像している。 【読む】 □発言（発表）・ノート
5 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・気に入った場面を選び、豆太の気持ちがわかるように音読することができる。 ・おもしろいところを紹介する文章を書き、互いに読み合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気に入った場面を選び、豆太の気持ちがわかるように音読し合う。 ・おもしろいところを紹介する文章を書き、互いに読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■人柄や人物を表す言葉が、文中で使われていることに気付いている。 【言語】 □音読、ノート、話し合い
<p>【ポイント①】 今金町図書館の司書が、授業で紹介する「おすすめの本」について、児童に対してレファレンスサービスを行っています。</p>			
9 ～ 12 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書カード」を紹介する活動について見通しをもつことができる。 ・自分の感想やおすすめできるおもしろい場面を探しながら読み、メモをとることができる。 ・グループで物語のおもしろいところについて話し合い、紹介する文章を書き、読み合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書カード」を紹介する活動について見通しをもつ。 ・決めた本について自分の感想やおすすめできるおもしろい場面を探しながら読みメモをとる。 ・メモをもとに、グループで物語のおもしろいところについて話し合い、紹介する文章を書き、読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「おすすめ図書カード」をもとに興味をもった本をすすんで読もうとしている。 【関・意・態】 □観察・ワークシート・メモ（ノート） ■登場人物の気持ちの変化や、場面のおもしろさに触れながら、「おすすめ図書カード」を作成している。 【読む】 □発言・ワークシート


13 ～ 17	・「おすすめ図書カード」を参考に紹介された本を読み、「ひと言」を書き合うことができる。	・「おすすめ図書カード」を参考に、紹介された本を読み、「ひと言」を書き合う。	■本の紹介を「あらすじ」、「構成」の内容や、「自分の感想」などから表現している。【言語】 □発言・ワークシート
---------------	---	--	--

4 本時の学習



□本時の目標

グループで物語のおもしろいところについて話し合い、紹介する文章を書き、読み合うことができる。(読むこと)

□本時の展開

過程	○主な学習活動	◇教師の関わり	■評価規準 □評価方法
導入	○前時の学習を振り返り、本時の学習課題を把握する。 課題：読書の世界を広げるために、本のおもしろさを伝えよう。	◇「おすすめ図書カード」を交流することで、本のおもしろさを友達と伝え合う学習であることを伝える。	【ポイント②】 今金町図書館との連携を図り、単元の学習に関連した図書を「まなBOOK」コーナーとして設置し、児童が本を手に取りやすいよう工夫しています。 ■登場人物の気持ちの変化や場面のおもしろさに触れながら「おすすめ図書カード」を作成している。【読む】 □発言・ワークシート
展開	○自分達の読んだ本について、「おすすめ図書カード」に記入する内容について話し合う。 ○話し合いやまとめた内容を「おすすめ図書カード」に記入する。 ○「おすすめ図書カード」の「おすすめじょうほう」を発表し合う。 ○他のグループの「おすすめ図書カード」を見る。 ○読みたくなった本とその理由を発表する。  【おすすめ図書カードの紹介】	◇各自が本を読んでメモした「気付いたこと」や「感想」をもとに「おすすめじょうほう」にどんなことを書くか順序を確認する。 ◇「おすすめじょうほう」に基づき「すすめる」ポイントを簡潔に書かせる。 ◇書き出せない児童には、本を読んで心が動いた部分に着目させる。 ◇「本の題名」、「作者」、「おすすめじょうほう」の順に発表させる。 ◇他のグループの「おすすめ図書カード」を見る前に、紹介文が、本のあらすじ、構成及び表現に触れているか、カードを見る観点を知らせる。 ◇読みたくなった本とその理由を述べるよう促す。 【ポイント③】 おすすめ図書カードに記入する時間や読み聞かせの場面では、今金町図書館の司書が来校し、児童に対して記入内容の支援や読み聞かせを行っています。	
終末	○次時の学習内容を知る。 まとめ：おもしろい場面を感想を交えながら発表することができた。～児童Aのノートより～	◇次時は読んでみたいと思った本を読み、「ひと言」を書き合うことを伝える。	

「チーム読書」今金小学校の取組

<h3 style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">取組1 委員会活動への指導</h3> <p>今金町図書館の司書から児童会図書委員会に対して、「新刊図書の整備方法」、「POP作り」、「本の扱い方や修理方法」などの指導を受けている。</p>  <p style="font-size: small;">【POPづくりについての指導】</p>	<h3 style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">取組2 読書アンケートの実施</h3> <p>毎年、9月に全校児童を対象に、「読書に関する興味関心」、「読書時間や冊数」、「図書に関するニーズ」などについてアンケート調査を実施し、子どもの読書活動の推進や学校図書館の環境整備の改善に生かしている。</p>	<h3 style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">取組3 図書だよりの発行</h3> <p>図書館司書教諭が中心となり新刊を紹介した図書館資料を紹介する「図書だよりの発行」を発行し、児童の読書に対する興味・関心を高めている。</p>  <p style="font-size: small;">【図書だよりの発行】</p>
--	--	--

東神楽町立東神楽中学校

学校図書館活用のポイント

- ① 生徒が単元を通して図書資料を有効に活用することができるよう、事前に索引等の活用方法や日本十進分類法（NDC）について指導します。
- ② 公立図書館の協力を得て、全ての生徒が様々な職業について調べ学習を行うのに十分な「職業ガイドブック」等の準備をしています。
- ③ 専門性の高い資料や職業全般について記載した資料を配置し、多様な選択肢に対応できるよう工夫しています。

1 単元名

職場訪問学習・将来や進路に向けて（中学校第1学年 総合的な学習の時間）

2 単元の目標と評価規準

【単元の目標】 職場訪問を通して、地域の職場と地域との結びつきを考えるとともに、望ましい職業観を育み、よりよい生き方を目指そうとする態度を育てる。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・望ましい職業観やよりよい生き方について考えようとしている。	・地域の職場と地域との結びつきを考えている。 ・職場訪問や図書資料で収集した情報を整理・分析することで、望ましい職業観やよりよい生き方について考えている。	・職場訪問でのインタビューや図書資料などから、課題解決に必要な情報を収集している。	・図書資料を活用し、よりよい生き方を目指すことのできる職業についての調べ方を理解している。

3 単元の指導計画


時	単位時間の目標	主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1 ～ 7	<p>【課題の設定】</p> <p>・望ましい職業観やよりよい生き方について考えるための学習計画を立てることができる。</p> <p>【単元のテーマ】</p> <p>職場訪問を通して、よりよい生き方について考えよう！</p>	<p>・単元のテーマを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・図書資料などを活用し、望ましい職業観やよりよい生き方について考えることのできる職業について選択し、個人の課題を設定する。</p> <p>・学習活動の計画を立てる。</p>	<p>■望ましい職業観やよりよい生き方について考えようとしている。 【関・意・態】</p> <p>■図書資料を活用し、よりよい生き方を目指すことのできる職業についての調べ方を理解している。 【知・理】</p> <p>□学習プリント・観察</p>
<p>【ポイント①】</p> <p>生徒が単元を通して図書資料を有効に活用することができるよう、事前に索引等の活用方法や「日本十進分類法」について指導します。</p>			
8 ～ 10	<p>【情報の収集】</p> <p>・個人の課題に応じた職場訪問を計画することができる。</p> <p>・職場訪問により、必要な情報を収集することができる。</p>	<p>・訪問する職場ごとのグループに分かれ、職場訪問の計画を立てる。</p> <p>・職場訪問の計画を発表し合い、ねらいや方法について共通理解を図る。</p> <p>・職場訪問を実施する。</p>	<p>■職場訪問でのインタビューや図書資料などから、課題解決に必要な情報を収集している。 【技能】</p> <p>□学習プリント・インタビューの様子</p>
11 ～ 17	<p>【整理・分析】</p> <p>・収集した情報を整理したり分析したりして、自己の課題に応じて思考することができる。</p>	<p>・地域の職場と地域との結びつきを分析する。</p> <p>・図書資料や職場訪問で収集した情報を整理し、望ましい職業観をもち、よりよい生き方を目指そうとする視点で個人レポートを作成する。</p>	<p>■地域の職場と地域との結びつきを考えている。 【思・判・表】</p> <p>■職場訪問や図書資料で収集した情報を整理・分析することで、望ましい職業観やよりよい生き方について考えている。 【思・判・表】</p> <p>□個人レポート・交流の様子</p>
18 ～ 22 本 時	<p>【まとめ・発表】</p> <p>・職場訪問から得た職業観や生き方について発表する。</p> <p>・自らの進路や将来設計を明確にするために、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・職場訪問の報告会を行う。</p> <p>・職場訪問の学習成果を基にして、自己の進路を考えさせることにより、中学校卒業後からの将来設計能力を育む。</p>	<p>■職場訪問や図書資料で収集した情報を整理・分析することで、望ましい職業観やよりよい生き方について考えている。 【思・判・表】</p> <p>□交流の様子・ワークシート</p>

4 本時の学習

□本時の目標

自らの進路や将来設計を明確にするために、自分の考えをまとめる。(思考・判断・表現)

□本時の展開

過程	○主な学習活動	◇教師の関わり	■評価規準 □評価方法
導入	○職場訪問の振り返りを行う。 ○課題の確認	◇職場訪問の準備・計画・実施・まとめのそれぞれの活動について想起させながら振り返えさせる。	
	課題：自らの進路や将来設計を明確にするために、自分の考えなどをまとめよう。		
展開	○課題を解決する方法を確認する。 【ポイント②】 専門性の高い資料や職業全般について記載した資料を配置し、多様な選択肢に対応できるよう工夫しています。 ○自らの将来設計のための必要な情報について、図書資料等を活用した調べ学習を行う。 ○調べた内容について発表し合う。	◇自らの将来設計を実現するには、中学校卒業後の具体的な進路を考えさせる。 ◇希望の職業に就くには、どのような資格が必要なのかを調べさせる。  【調べ学習の様子】 ◇学校図書館にある図書資料を効果的に活用するよう促す。 ◇発表（交流）内容を確認する。 ①希望の職業について ②希望の職業に就くための中学校卒業後の進路について ③希望の職業に就くために必要な資格や資質について	【ポイント③】 公立図書館の協力を得て、全ての生徒が様々な職業について調べ学習を行うのに十分な「職業ガイドブック」等の準備をしています。 ■職場訪問や図書資料で収集した情報を整理・分析することで、望ましい職業観やよりよい生き方について考えている。【思・判・表】 □交流の様子・ワークシート
終末	○本時の振り返りを行う	◇交流を通して、今後の自分の職業観や生き方についての考えをまとめる。	
	まとめ：自分の卒業後の進路について明確な方向性をもつことができた。～生徒Aのノートより～		

「チーム読書」東神楽中学校の取組

取組1 「チーム読書」東神楽中

東神楽中では、「チーム読書東神楽中」として、学校図書館の館長である校長をはじめ、教職員、司書教諭、学校図書協力員、図書常任委員会、町立図書館、保護者のそれぞれが連携を図り子どもの読書活動を推進している。



【学校図書協力員による環境整備】

取組2 図書常任委員会の活動

生徒会活動である「図書常任委員会」では、自校の生徒が学校図書館を積極的に活用することを目指し、「新刊購入希望についてのアンケート調査」や「おすすめ本の紹介ポスターの作成」などの取組を推進している。



【図書常任委員会の活動の様子】

取組3 PDCAサイクルによる検証

アンケート調査の結果から、次のように読書活動の改善を図っている。

【Check】

- ・授業に必要な図書がそろっていない。
- ・教科等で学校図書館を活用するためのカリキュラムがない。

【Action】

- ・教育委員会との連携を図った図書購入の具体策を講ずる。
- ・各教科において学校図書館を活用した授業を年間指導計画等に位置付ける。

別海町立中西別小学校

学校図書館活用のポイント

- ① 授業で作成した新聞スクラップは、全校児童や保護者などがいつでも目にすることができるよう学校図書館に展示します。
- ② 学校図書館に複数の新聞を新聞社ごと、日付ごとに展示するとともに、記事に関連した図書資料を展示するなど、児童の興味関心が広がる環境整備を行っています。
- ③ 学校図書館の掲示板に新聞の構成について説明したコーナーを設定しています。

1 単元名

新聞を読もう（小学校第5学年 国語科）※本実践は、第5学年と第6学年の複式授業の第5学年を取り上げています。

2 単元の目標と評価規準

【単元の目標】 「新聞スクラップ」を作成するために、自分が興味をもったテーマについて、複数の新聞記事を比較・分類・関連付けながら効果的に読むことができる。		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
・新聞記事の書き方や編集の仕方に工夫があることに気付くとともに、自分の目的に合わせて読もうとしている。	・新聞記事の記述の仕方に着目して効果的な読み方を工夫している。 ・複数の文章を比べて読み、筆者の意図、表現の工夫及び内容について関係付けながら、自分の考えを明確にして読んでいる。	・文や文章には様々な構成があり、目的に応じて構成されていることを理解している。

3 単元の指導計画


時	単位時間の目標	主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	・提示した複数の新聞スクラップを見て、学習の見通しをもつことができる。	・新聞の仕組みや内容について知り、新聞記事を読み比べるという単元の見通しをもつ。 ・新聞の特徴について掲示する。	■新聞記事の書き方や編集の仕方に工夫があることに気付くとともに、自分の目的に合わせて読もうとしている。 【関・意・態】 □発言・観察
2 本 時	・テーマに沿って、複数の新聞を読み比べ必要な情報を整理することができる。	・新聞の仕組みに着目して読む。 ・新聞によって、同じ内容でも伝え方や詳しく述べている部分が異なることを理解する。 ・情報を整理するための観点が分かる用紙にまとめる。	■新聞記事の記述の仕方に着目して効果的な読み方を工夫している。 【読む】 □観察・ワークシート
3	・新聞スクラップを作ることができる。 【ポイント①】 授業で作成した新聞スクラップは、全校児童や保護者などがいつでも目にすることができるよう学校図書館に展示します。	・読み手によく伝わるためには、記事のどの部分に着目して、新聞スクラップを作ればよいか考える。 ・筆者の意図、表現の工夫及び内容について分かったことや、それらを基に考えたことをまとめる。	■複数の文章を比べて読み、筆者の意図、表現の工夫及び内容について関係付けながら、自分の考えを明確にして読んでいる。 【読む】 ■文や文章には様々な構成があり、目的に応じて構成されていることを理解している。 【知・理・技】 □新聞スクラップ
4	・作った新聞スクラップを読み合い、友達の工夫点について考えることができる。	・友達がつくったスクラップの工夫点について考える。 ・どんなところが印象に残ったのか、記事の内容だけではなく、記事の表現等について理由を挙げながら交流する。	■複数の文章を比べて読み、筆者の意図、表現の工夫及び内容について関係付けながら、自分の考えを明確にして読んでいる。 【読む】 □観察・ノート

4 本時の学習

□本時の目標

テーマに沿って、複数の新聞を読み比べ必要な情報を整理することができる。(読むこと)

□本時の展開

過程	○主な学習活動	◇教師の関わり	■評価規準 □評価方法
導入	<p>○教師が作成した複数の新聞スクラップのサンプルを読む。</p> <p>○どのような観点で記事を読めばよいか見通しをもつ。</p> <p>課題：新聞記事のひみつを探そう。そして新聞スクラップに生かそう。</p>	<p>◇教師が作成した新聞スクラップのサンプルを提示する。</p> <p>◇サンプルがどのような点に注目してまとめられているか確かめさせる。</p>	<p>【ポイント②】 学校図書館に複数の新聞を新聞社ごと、日付ごとに展示するとともに、記事に関連した図書資料等を展示し、児童がいつでも参考にできるようにしています。</p> <p>【ポイント③】 学校図書館の掲示板に「トップ記事」、「見出し」、「リード文」などの新聞の構成について説明したコーナーを設け、日常的に児童の目に触れるようにしています。</p> <p>■新聞記事の記述の仕方に着目して効果的な読み方を工夫している。【読む】 □付箋・発表</p>
展開	<p>○黒板に貼った複数の新聞を読み比べる。</p> <p>○読んだ感想、気付いたこと、共通点、相違点、疑問点を色別の付箋に書く。</p> <p>○黒板に掲示した新聞についての検討を終えたら、自分が選択した記事について検討する。</p> <p>○付箋に書いた内容をまとめ、交流する。</p> <p>交流の視点 ・感想 ・工夫されている点 ・共通点、相違点について</p>	<p>◇記事に偏りがでないように、様々な分野の記事に目を向けるように促す。</p> <p>◇漢字の読み方や言葉の意味を確認する。</p> <p>◇共通点や相違点に気付けるよう声かけを行う。</p> <p>◇交流の視点を明示する。</p>	
終末	<p>○今日学んだことを振り返る。</p> <p>まとめ：新聞記事を読み比べると、見出しや写真、引用する人の言葉などの違いがあることが分かった。</p>	<p>◇必要に応じて、対話を通して児童の気持ちを言語化させる。</p> <p>◇次回に新聞スクラップを書く際の記述内容や構成について見通しをもたせる。</p>	 <p>【授業の様子】</p>

「チーム読書」中西別小学校の取組

取組1 公立図書館との連携

別海図書館の支援により環境整備に関わり大がかりな改善を行った。

■除架作業

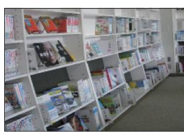
古い本や状態が悪い本などを廃棄した。

■配架の工夫

本の面出しや見出しの挿入を行い、児童が手に取りやすいようにした。



【古い本】



【整備された書架】

取組2 教育委員会との連携

教育委員会が主催となって、「別海町子ども会議『ビブリオ・バトル』」を実施している。

また、チャンプ本になった図書も含めて、「別海町の子どもたちが選んだ50選」に掲載し、各学校に配付している。



【50選ポスター】

取組3 計画の点検・改善

学校図書館の全体計画の策定はもとより、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を位置付け、計画的に授業を実施している。

また、計画に授業に必要な図書資料を明記し、授業での活用や購入計画に反映させている。



【全体計画】

北海道学力・体力向上対策推進事業
学校図書館活用促進事業
事例集

平成31年3月発行

編集・発行 北海道教育委員会

